

平成28年度 津田小学校評価自己評価表

- 1 学校教育目標 『夢に向かいチャレンジする津田小の子』～自ら考え行動する子・自他を大切にできる子・元気にチャレンジする子～
- 2 ミッション 「夢に向かい諦めずに夢を育む児童の育成」をするために知・徳・体のバランスのとれた児童を育成する
- ビジョン 児童・教職員・保護者・地域が共に誇れる学校をめざす

評価計画				取組の方策		自己評価				学校関係者評価コメント								
中期経営目標	短期経営目標	評価項目	担当	評価指標(目標値)	評価	具体的に、取組指標も入れる	必要なアンケートの項目 チェックする時期と担当者など	中間評価			最終評価							
								評価	根拠	改善方策	評価	根拠	改善方策					
<p>確かな学力(知)</p> <p>・基礎、基本の力を身に付け、自ら考え、表現する「確かな学力」を育む</p>	<p>◎基礎的・基本的な知識、技能の定着</p>	<p>1 1</p>	<p>・児童に確かな学力をつけている。</p>	<p>教務部</p>	<p>・6年生「全国学力調査」平均通過率60%以上の児童の割合</p>	<p>80%以上 4</p> <p>70～79% 3</p> <p>60～69% 2</p> <p>60%未満 1</p>	<p>授業づくり</p> <p>・単元全体を見通した授業づくりをする。</p> <p>・既習事項を生かして次の課題を解決する授業の流れを作る。</p> <p>・授業の見直しを持って時間配分を守り、応用問題を</p> <p>を行い「わかった」「できた」と実感させる。</p> <p>・最終的に自力解決のできる子どもを育てる。</p>	<p>「全国学力テスト」調査結果(4月)</p>	<p>3</p>	<p>全国学力テスト調査結果について 国語A平均通過率60%以上の児童の割合62% 算数A平均通過率60%以上の児童の割合60.9% 平均して71.5%であり、評価は3である。</p>	<p>(全国学力テスト・基礎・基本)定着状況調査結果 ・2学期以降もチャレンジタイムや家庭学習で基本的な内容の定着を図るように全学年で実施する。 ・活用力を付けるため、国語では、説明文の教材で資料を読み取り、必要なワードを見つけ、関連づけ、説明する授業を積極的に取り入れる。算数では、数学的な考え方を培う単元において、図式・言葉を使って自分の考えを説明する活動やペア・グループで話し合い、自分の考えを明確に持たせる授業を行う。理科においては、実験する際、観察事項や生活経験をもとに予想を立て、結果を自分の言葉でまとめる活動をする。</p>	<p>3</p>	<p>全国学力テスト調査結果について 国語A平均通過率60%以上の児童の割合62% 算数A平均通過率60%以上の児童の割合60.9% 平均して71.5%であり、評価は3である。</p>	<p>今年度は、各学力検査の結果だけで終わらず、特に算数の思考観点における単元末での習熟を図る取組を継続して行った。 その結果、2学期末の思考のテストでは、74点、3学期の思考のテストでは、81点であった。また、全国学力・基礎・基本)学力状況調査で特に通達率の低かった問題について思考を高める単元終了後に適用題として実施し、その通達率が平均65%であった。学期末テスト、適用題テストとは、通達率が向上している。今後も継続して指導を進めていきたい。</p>	<p>・今年度に継続した取組、指導に期待する。 ・児童の学習意欲の高まりは感じられる。特に習字の学習における指導者には感心させられる。 ・先生が子どもとよく関わっているから、人間的なつながりができているように思う。</p>			
					<p>・5年生「基礎・基本」定着状況調査平均通過率60%以上の児童の割合</p>	<p>80%以上 4</p> <p>70～79% 3</p> <p>60～69% 2</p> <p>60%未満 1</p>	<p>「基礎・基本」定着状況調査結果(6月)</p>	<p>2</p>	<p>「基礎・基本」定着状況調査結果について 国語タイプ1平均通過率60%以上の児童の割合61.1% 算数タイプ1平均通過率60%以上の児童の割合77.8% 理科タイプ1平均通過率60%以上の児童の割合55.6% 平均して64.8%であり、評価は2である。</p>	<p>「基礎・基本」定着状況調査結果について 国語の正答率92.9%、算数タイプ1平均通過率78.0%、全国68.0% 算数の正答率91.0%、算数タイプ1平均通過率71.0%、全国63.7%であった。 また個別の成績が分からないので、正答率60%以下の児童の割合なども把握できないが全体的に良好であった。</p>	<p>・各学力定着状況調査の結果から、思考・表現、活用に関する内容に課題があったことは、文章をしっかり読み取り、目的に即して記述する力が不足していると考えられる。そこで、今年度は、道徳の時間を中心に「考え、思考する」授業の推進に向けて研鑽・実践した。特に、その1時間とねらいつける内容については、ワークシートに自分の考えを伝え、小グループで討論したり、全体で練り上げたりする活動を積極的に取り入れて、来年度も「考え、思考できる」授業となるために授業改善に取り組みたい。また、基礎・基本の定着、各学力検査での通過率が60%以下の児童の割合を今年度より下げるためにも、「分かった」でできた児童がさらに進んで学習しているよう学校全体で取り組んでいきたい。 ・協力的な学習内容の定着を図るよう取組を進めていきたい。</p>	<p>・各学力定着状況調査の結果から、思考・表現、活用に関する内容に課題があったことは、文章をしっかり読み取り、目的に即して記述する力が不足していると考えられる。そこで、今年度は、道徳の時間を中心に「考え、思考する」授業の推進に向けて研鑽・実践した。特に、その1時間とねらいつける内容については、ワークシートに自分の考えを伝え、小グループで討論したり、全体で練り上げたりする活動を積極的に取り入れて、来年度も「考え、思考できる」授業となるために授業改善に取り組みたい。また、基礎・基本の定着、各学力検査での通過率が60%以下の児童の割合を今年度より下げるためにも、「分かった」でできた児童がさらに進んで学習しているよう学校全体で取り組んでいきたい。 ・協力的な学習内容の定着を図るよう取組を進めていきたい。</p>	<p>・学力テストの結果をみると、それなりの成果がでているように思う。</p>					
					<p>・4年生算数の標準学力テストの基礎の通過率(全国平均を上回る児童割合)</p>	<p>80%以上 4</p> <p>70～79% 3</p> <p>60～69% 2</p> <p>60%未満 1</p>	<p>標準学力テスト 結果(3月)</p>	<p>4</p>	<p>・廿日市市学力定着状況調査の結果として 国語の正答率92.9%、算数タイプ1平均通過率78.0%、全国68.0% 算数の正答率91.0%、算数タイプ1平均通過率71.0%、全国63.7%であった。 また個別の成績が分からないので、正答率60%以下の児童の割合なども把握できないが全体的に良好であった。</p>	<p>・廿日市市、全国平均と比較して国語・算数とも上回る良好な状況であった。 また個別の成績が分からないので、正答率60%以下の児童の割合なども把握できないが全体的に良好であった。</p>	<p>・廿日市市、全国平均と比較して国語・算数とも上回る良好な状況であった。 また個別の成績が分からないので、正答率60%以下の児童の割合なども把握できないが全体的に良好であった。</p>	<p>・各学力定着状況調査の結果から、思考・表現、活用に関する内容に課題があったことは、文章をしっかり読み取り、目的に即して記述する力が不足していると考えられる。そこで、今年度は、道徳の時間を中心に「考え、思考する」授業の推進に向けて研鑽・実践した。特に、その1時間とねらいつける内容については、ワークシートに自分の考えを伝え、小グループで討論したり、全体で練り上げたりする活動を積極的に取り入れて、来年度も「考え、思考できる」授業となるために授業改善に取り組みたい。また、基礎・基本の定着、各学力検査での通過率が60%以下の児童の割合を今年度より下げるためにも、「分かった」でできた児童がさらに進んで学習しているよう学校全体で取り組んでいきたい。 ・協力的な学習内容の定着を図るよう取組を進めていきたい。</p>	<p>・各学力定着状況調査の結果から、思考・表現、活用に関する内容に課題があったことは、文章をしっかり読み取り、目的に即して記述する力が不足していると考えられる。そこで、今年度は、道徳の時間を中心に「考え、思考する」授業の推進に向けて研鑽・実践した。特に、その1時間とねらいつける内容については、ワークシートに自分の考えを伝え、小グループで討論したり、全体で練り上げたりする活動を積極的に取り入れて、来年度も「考え、思考できる」授業となるために授業改善に取り組みたい。また、基礎・基本の定着、各学力検査での通過率が60%以下の児童の割合を今年度より下げるためにも、「分かった」でできた児童がさらに進んで学習しているよう学校全体で取り組んでいきたい。 ・協力的な学習内容の定着を図るよう取組を進めていきたい。</p>	<p>・今年度に継続した取組、指導に期待する。 ・児童の学習意欲の高まりは感じられる。特に習字の学習における指導者には感心させられる。 ・先生が子どもとよく関わっているから、人間的なつながりができているように思う。</p>				
					<p>・適用題までできる授業づくり</p> <p>・子どもへの肯定的な声かけをする授業づくり</p> <p>・考える時間を確保し書かせる時間のある授業づくり</p> <p>以上の3点に留意した授業を行うことができた割合(算数の全授業の同%)</p>	<p>80%以上 4</p> <p>70～79% 3</p> <p>60～69% 2</p> <p>60%未満 1</p>	<p>毎学期終了後の授業実施割合(7月、3月)</p>	<p>4</p>	<p>1学期の授業実施について算数の全授業の割合は ①適用題までできる授業は90% ②子どもへの肯定的な声かけをする授業づくりは100% ③考える時間を確保し、書かせる時間のある授業づくりは70% ①～③の平均は80%であったので評価は4である。</p>	<p>2・3学期の授業実施について算数の全授業の割合は ①適用題までできる授業は93% ②子どもへの肯定的な声かけをする授業づくりは100% ③考える時間を確保し、書かせる時間のある授業づくりは75% ①～③の平均は89.3%であったので評価は4である。</p>	<p>2学期以降の授業においても、評価指標を定めた授業展開を行い、児童が「分かった」でできたと思えるように工夫改善を行う。 ・2学期以降において、国語科では説明文の単元終了後、算数科では算数の思考力を高める単元終了後、「適用題」として学力テストで通達率の低い問題に関する内容(考え、書く活動を行う問題)を行い、その習熟を図るとともに今後の指導に生かすようにする。 (4・5年の単元終了後のテストとして、適用題(過去の問題)を必ず行う。)</p>	<p>2学期以降の授業においても、評価指標を定めた授業展開を行い、児童が「分かった」でできたと思えるように工夫改善を行う。 ・2学期以降において、国語科では説明文の単元終了後、算数科では算数の思考力を高める単元終了後、「適用題」として学力テストで通達率の低い問題に関する内容(考え、書く活動を行う問題)を行い、その習熟を図るとともに今後の指導に生かすようにする。 (4・5年の単元終了後のテストとして、適用題(過去の問題)を必ず行う。)</p>	<p>・今年度に継続した取組、指導に期待する。 ・児童の学習意欲の高まりは感じられる。特に習字の学習における指導者には感心させられる。 ・先生が子どもとよく関わっているから、人間的なつながりができているように思う。</p>					
					<p>・命を大切に、自他を認め、いじめを許さない、いじめをしない学校・学級集団になっている。</p>	<p>2 1</p>	<p>生徒指導部</p>	<p>・児童の肯定的評価(級友関係、規範意識、自己存在感関係項目)</p>	<p>90%以上 4</p> <p>80～89% 3</p> <p>70～79% 2</p> <p>70%未満 1</p>	<p>・帰りの会で全学年、週に3回は「いいことみつけ」を行い「今週の1枚」を送呈・掲示する。学級全員が認められる機会を持てるように、席巻後に「ありがとうメッセージ」を贈るなど学級実態に合わせた取組をする。</p> <p>・アクセスによる学級全体と個人の傾向を把握し、取組に役立てる</p> <p>・面談週間をとることで、1人1人の児童と丁寧に話をしたり聞いたりする時間ももつ。</p>	<p>児童アンケート(7月、12月) 「学校に友だちがいる」 「学級のみんなかから認められている」 「津田小学校はいじめのない学校になっている」</p>	<p>3</p>	<p>児童アンケートにおいて「学校に友だちがいる」95% 「学級のみんなかから認められている」83% 「津田小学校はいじめのない学校になっている」70%である。</p>	<p>・児童間の関係や様子を見つめ、今後も自立して児童の思いがけない児童の実態をつかむ努力をする。 ・2学期以降は、児童間の関係が深まり、児童の自己有用感が高まるように、「いいことみつけ」や学級におけるコンクールなどの取組を進める。 ・道徳や学級活動を通しての指導はかたがたく、児童委員会などの児童による自主活動の取組により、「いいことみつけ」を進める。 ・児童が「いじめ」を実感できるようアンケートなどを通して児童の思いを把握し対応する。</p>	<p>児童アンケートにおいて「学校に友だちがいる」95% 「学級のみんなかから認められている」83% 「津田小学校はいじめのない学校になっている」70%である。</p>	<p>・児童間の関係や様子を見つめ、今後も自立して児童の思いがけない児童の実態をつかむ努力をする。 ・2学期以降は、児童間の関係が深まり、児童の自己有用感が高まるように、「いいことみつけ」や学級におけるコンクールなどの取組を進める。 ・道徳や学級活動を通しての指導はかたがたく、児童委員会などの児童による自主活動の取組により、「いいことみつけ」を進める。 ・児童が「いじめ」を実感できるようアンケートなどを通して児童の思いを把握し対応する。</p>	<p>・友達の交流や経験が高まるにつれ、友達とのつながりが広がっているように思われる。また、その中で自己有用感の高まりもわずかながらではあるが見ることができている。 しかし、一部の事象ではあるが連続する落書きなどの問題が続出し、児童の中で「いじめがある」という意識が高まってしまった。今後、一人一人の児童の様子を細かく捉えていくと共に、道徳や特別活動などを通して児童の意識を高めていく必要がある。</p>	<p>・いじめの根絶を目指した取組を続けてほしい。 ・正直で明るい子どもたちです。挨拶もしっかりできています。 ・統合後2年経ったが津田の子どもとよく遊ぼうになり、交友関係も広がって学校の話をよくするようになってほしい。 ・先生方が適切な認め方(言葉かけ等)をしているように思う。</p>

平成28年度 津田小学校評価自己評価表

- 1 学校教育目標 『夢に向かいチャレンジする津田小の子』～自ら考え行動する子・自他を大切にする子・元気にチャレンジする子～
 2 ミッション 「夢に向かい諦めず夢を育む児童の育成」をするために知・徳・体のバランスのとれた児童を育成する
 ビジョン 児童・教職員・保護者・地域が共に誇れる学校をめざす

評価計画	評価計画			取組の方策		必要なアンケートの項目 チェックする時期と担当者など	自己評価				学校関係者評価コメント												
	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	担当	評価指標(目標値)		評価	中間評価		最終評価													
								評価	根拠	改善方策		評価	根拠	改善方策									
<p>・活力ある生活の基盤となる体力や運動能力を養い、「健やかな体」を育む</p> <p>・健やかな体(体)</p>	<p>◎ 健康に対する意識を高め、活力ある生活の基盤となる体力や運動能力を育む</p> <p>◎ 食育の実践を通して子ども自立心を向上させる</p>	<p>3 1 1</p> <p>・自ら進んで体力づくりに取り組む、運動能力が向上している。</p>	<p>健康安全部</p>	<p>・体力づくりの取組の達成目標の到達度。走力・投力・握力における県平均以上の学級の割合(男女別)</p>	8/12以上	4	・体育の時間に、走る運動、ボールを投げる運動、ハンドグリップを使った運動や鉄棒やうんていを使ったサーキットを継続的に取り入れる。	<p>・体力テスト(5月末)実施後、テスト結果を7月中旬までに集計・評価する。</p> <p>・課題のあった項目について再テスト週間を(2月末)を設定し、伸びを評価する。</p>	<p>2</p>	<p>「握力」 朝トシと、体育の授業の準備運動でハンドグリップを使った運動を継続して行う。サーキット運動の中に掌縁と鉄棒を入れ、「握る」力の増進に向けた運動に取り組みさせる。また「グーパー運動」や「踵巾しほり」など日常生活の中に握力を意識した活動を取り入れる。 「立ち幅踏み」「跳力」を伸ばすため、体幹を鍛える運動を取り入れる。簡単に楽しい運動を紹介し、継続取り組ませる。 「同じ遊びだけでなく、学級でのクイズを計画したり、遊びの紹介をしたり、いろいろな外遊びをするようにさせる。</p>	<p>4</p>	<p>「これらもハンドグリップを使った運動や鉄棒や握力を使ったサーキット運動を体育の授業に積極的に取り入れる。休憩時間も自主的に取り組めるようにする。」「踵巾しほり」「踏すもうり」など日常の中でも握力を意識した運動に取り組みさせようとする。</p> <p>・体育会の「フリスビー」運動機能を高めるため、「体幹トレーニング」を朝トシや体育の準備運動で継続的に取り組むようにする。</p>	<p>学校関係者評価コメント</p>										
					6/12	3	・外遊びを奨励し、日常生活の中で体力や運動能力を育むようにさせる。																
					4/12	2																	
					2/12以下	1																	
					80%以上	4	・各教科の時間を使い、ねらいをはっきりさせた食育を推進していくことで児童の食への関心を高める。							<p>・児童の委員会活動で残菜を減らす呼びかけをする。</p> <p>・弁当の日の後、児童用の振り返りカードから評価する。(6月、11月、2月)</p> <p>・弁当の日の後、取組に対するアンケートを保護者対象に行う。(6月、2月)</p>	<p>3</p>	<p>・健康委員会では1学期は歯みがきと給食の片付けの両方をかけがせに行っていた。</p> <p>・食育の年間計画をたて、進めている。</p> <p>・お弁当の日の振り返りアンケートでは、</p> <p>「家族で食についての話ができて」「感謝の気持ちが増えた」「家族への感謝の気持ちが育った。」「学校でも、子どもへの声かけなど工夫をしてく、継続して保護者の協力も十分得られるよう取り組みをしていく。」</p> <p>「自信や自立心が育っている」と答えた児童は94%で、保護者は90%であった。</p> <p>・5・6年生の交流の場では、相手の様子を認めている児童がいた。</p>	<p>4</p>	<p>・給食クイズで、調理員さんの話を全校に紹介したり、各クラスで調理員さんや交流する場(全学年授業活動)で呼びかけ、給食減らす食べら大切さを呼びかけた。</p> <p>・栄養士の先生、給食調理員さん、養護教諭と連携して食育を推進する。</p> <p>・アンケートでは、概ね肯定的な評価であった。一方「家族で食についての話ができて」「感謝の気持ちが増えた」「家族への感謝の気持ちが育った。」など肯定的な回答が多かった。児童は82%で、保護者は75%であった。</p> <p>「自信や自立心が育っている」と答えた児童は87%で、保護者は72%であった。</p> <p>「学年年と縦・中学生の交流の場(保護者や先生)では、相手の様子を認めている児童が多かった。」</p> <p>・児童の交流で、食に関心をもち、お互いの様子を認め合えるような場を設けている。</p>					
					70~79%	3	・「お弁当」交流の場や、肯定的評価の場、家族との振り返りの場を設け、内容を紹介していく。																
					60~69%	2																	
					60%未満	1																	
					80%以上	4	・地域の方々との支援調整会議を毎月開催する。												<p>児童アンケート 「地域の人に教えていただいたり、一緒に活動したりするのは楽しいですか。」</p> <p>「津田のことについて、「もっと知りたい」、「調べてみたい」と思うことがありますか。」「(3年生以上)</p>	<p>4</p>	<p>・「地域の人に教えていただいたり、一緒に活動したりするのは楽しいですか。」肯定的評価 97% 学校支援地域本部「ふるさと独立支援」の支援回数25回(のべ79名(1学期)) 肯定的評価 82%</p> <p>・「津田のことについて「もっと知りたい」、「調べてみたい」と思うことがありますか。」「(3年生以上)肯定的評価 82%</p>	<p>4</p>	<p>・「地域の人が教えていただいたり、一緒に活動したりするのは楽しいですか。」肯定的評価 94% 学校支援地域本部「ふるさと独立支援」の支援回数25回(のべ261名(1学期)) 肯定的評価 89%</p> <p>・「津田のことについて「もっと知りたい」、「調べてみたい」と思うことがありますか。」「(3年生以上)肯定的評価 89%</p>
					70~79%	3	・「お弁当」交流の場や、肯定的評価の場、家族との振り返りの場を設け、内容を紹介していく。																
60~69%	2																						
60%未満	1																						
80%以上	4	・家庭学習ステップアップ週間を学期に1回実施し、家庭での過ごし方を意識させ、保護者にも協力を得る。	<p>児童アンケート(7月、12月) 「学校がある日に、家でも学年の目標時間以上勉強していますか。」</p> <p>保護者アンケート 「子どもは学校があった日、家でも学年の目標時間以上勉強していますか。」</p>	<p>4</p>	<p>児童アンケート7月 「学校がある日に、家でも学年の目標時間以上勉強していますか。」肯定的評価93%</p> <p>保護者アンケート7月 「子どもは学校があった日、家でも学年の目標時間以上勉強していますか。」肯定的評価79%</p>	<p>4</p>	<p>児童アンケート12月 「学校がある日に、家でも学年の目標時間以上勉強していますか。」肯定的評価90%</p> <p>保護者アンケート12月 「子どもは学校があった日、勉強していますか。」肯定的評価84%</p>																
70~79%	3	・家庭学習ステップアップ週間カードで、学習時間、自主学習の伸びを取り、振り返りをさせる。																					
60~69%	2	・「自学のすすめ」をもとに学習の仕方を指導し、自分で取り組む課題を週1回以上行わせる。(家庭学習の質をあげる)																					
60%未満	1	・普段から、わからないまま空白で終わらせない指導をする。(必ず解答する、自分で調べること)																					
90%以上	4	・「さいきょうノート」を活用した共通指導と懇話交流。						<p>児童アンケート(7月、12月) 「出会った人に大きな声で挨拶をしていますか。」</p> <p>児童アンケートにおいて、「出会った人に大きな声で挨拶をしている。」「94%</p>	<p>4</p>	<p>児童アンケートにおいて「出会った人に大きな声で挨拶をしている。」「94%</p>	<p>・「家庭学習の質の向上を望む。」</p> <p>・「家庭での学習のリズムがついてきている。」</p> <p>・「それぞれの子どもたち立派に成長してきています。」</p>												
70~79%	3	・「自学のすすめ」をもとに学習の仕方を指導し、自分で取り組む課題を週1回以上行わせる。(家庭学習の質をあげる)																					
60~69%	2																						
60%未満	1																						
90%以上	4	・「さいきょうノート」を活用した共通指導と懇話交流。																					
90%以上	4	・「さいきょうノート」を活用した共通指導と懇話交流。																					

平成28年度 津田小学校評価自己評価表

- 1 学校教育目標 『夢に向かいチャレンジする津田小の子』～自ら考え行動する子・自他を大切にできる子・元気にチャレンジする子～
 2 ミッション 「夢に向かい諦めず夢を育む児童の育成」をするために知・徳・体のバランスのとれた児童を育成する
 ビジョン 児童・教職員・保護者・地域が共に誇れる学校をめざす

評価計画						取組の方策		必要なアンケートの項目 チェックする時期と担当者など	自己評価						学校関係者評価コメント					
中期経営目標	短期経営目標	評価項目	担当	評価指標（目標値）		評価	具体的に、取組指標も入れる		中間評価			最終評価								
				評価	根拠				改善方策	評価	根拠	改善方策								
自信と誇りを持った児童	○マナーや規範意識の育成	「さいきつ子ノート」にあるマナーや規範意識を守ろうとしている。学習規律の徹底。	生徒指導部会	・児童の肯定的評価（「さいきつ子ノート」に書いてあることを守ろうとしている。） ・保護者と児童の肯定的評価（挨拶関係項目）	80～89%	3	・「あいさつ運動」の取組を継続して行う。 ・毎日縦割りの班掃除にすることで掃除の仕方がより徹底できるようにする。高学年にリーダーとしての自覚をもたせる。	保護者アンケート 「津田小学校の子どもは出会った人に元気がよく挨拶をしている。」 児童アンケート 「掃除を時間いっぱいしていないにやっている。」 保護者アンケート 「津田小学校は掃除の行き届いた学校になっている。」 児童アンケート 「学習規律が徹底している。」	4	「掃除を時間いっぱいしていないにやっている。」97% 「学習規律が徹底している。」94% 保護者アンケート 「津田小学校の子どもは出会った人に元気がよく挨拶をしている。」77% 「津田小学校は掃除の行き届いた学校になっている。」87%である。	4	基本的な学習規律、生活規律は定着が見られる。 ・児童のあいさつの実態は、している児童の意識と受けている保護者の意識と差が見られる。「大きな声で、進んであいさつをしていく取組を、学級指導や児童会活動を通して進めていく。 ・掃除活動は、自問清掃の定着もあり、高まりを見ることができた。	6% 「掃除を時間いっぱいしていないにやっている。」99% 「学習規律が徹底している。」92% 保護者アンケート 「津田小学校の子どもは出会った人に元気がよく挨拶をしている。」76% 「津田小学校は掃除の行き届いた学校になっている。」90%	期限られた中で不安定になる事象があり、今後も児童の様子や心算をつかみながら学級経営、学習指導をしていかなければならない。 ・児童のあいさつの実態は、している児童の意識と受けている保護者の意識と差は残り、児童があいさつをしていく取組を、今後も特活動や児童会活動などを通して充実させていかなければならない。 ・掃除活動は、意欲的に児童は取り組み、わずかではある	す。元気がいいががんばる子に育ててください。					
				70～79%	2	・自問清掃が徹底するように自問タイムを設け、確実に行わせる。	「掃除を時間いっぱいしていないにやっている。」97% 「学習規律が徹底している。」94% 保護者アンケート 「津田小学校の子どもは出会った人に元気がよく挨拶をしている。」77% 「津田小学校は掃除の行き届いた学校になっている。」87%である。									4	基本的な学習規律、生活規律は定着が見られる。 ・児童のあいさつの実態は、している児童の意識と受けている保護者の意識と差が見られる。「大きな声で、進んであいさつをしていく取組を、学級指導や児童会活動を通して進めていく。 ・掃除活動は、自問清掃の定着もあり、高まりを見ることができた。	6% 「掃除を時間いっぱいしていないにやっている。」99% 「学習規律が徹底している。」92% 保護者アンケート 「津田小学校の子どもは出会った人に元気がよく挨拶をしている。」76% 「津田小学校は掃除の行き届いた学校になっている。」90%	期限られた中で不安定になる事象があり、今後も児童の様子や心算をつかみながら学級経営、学習指導をしていかなければならない。 ・児童のあいさつの実態は、している児童の意識と受けている保護者の意識と差は残り、児童があいさつをしていく取組を、今後も特活動や児童会活動などを通して充実させていかなければならない。 ・掃除活動は、意欲的に児童は取り組み、わずかではある	す。元気がいいががんばる子に育ててください。
				70%未満	1	・「掃除反省カード」を使って振り返りを行う。 （チェック項目7のうち1つをリーダーが選んで職員に伝える。1つずつ確実に項目がクリアするようにする。）														

★小中学校共通項目